

## ◎長崎県諫早市

【人 口】 140,509 人 【面 積】 320.99 k m<sup>2</sup> 【一般会計】 561.3 億円

### ◆視察事項「新庁舎建設事業について」

本市の新庁舎建設に当たっての参考とするため、本市と同様、複数の建物で市庁舎を構成し、平成 22 年 1 月 4 日から業務を開始した諫早市庁舎の建設事業について視察を行った。

#### ・新庁舎建設までの経緯

昭和 35 年建築の旧庁舎の著しい老朽化により、旧庁舎南側の芝生広場に新庁舎を建設。なお、芝生広場への新庁舎建設を見据え、平成 15 年に新庁舎の隣に別館（延床面積約 4,000 m<sup>2</sup>）を建設している。

#### ・諫早市庁舎の概要

(1) 工事期間：平成 20 年 6 月 25 日～平成 21 年 11 月 30 日

(2) 規模・構造

建築面積：2,037 m<sup>2</sup> 延床面積：18,504 m<sup>2</sup>

建物構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上 10 階、地下 1 階

駐車場：157 台（新庁舎 41 台、旧庁舎 62 台、北側臨時駐車場 54 台）

計画職員：庁舎内職員 770 人

(3) 建設費

総事業費：49.84 億円（うち本体工事費 42.4 億円）

（財源）一般財源 1.21 億円、基金 7.26 億円、起債 41.37 億円（起債は合併特例債を活用）

(4) 各フロアの概要

地下：公用車駐車場

1 階：総合案内、市民窓口（執務室）

2 階：執務室、食堂、売店、授乳室、キッズコーナー

3～8 階：執務室

9 階：議会フロア



#### ・諫早市庁舎の特色

(1) 長崎県福祉のまちづくり条例の基準を上回る機能の充実

トイレ：市民が利用するすべての階（1～9 階）に多目的トイレを設置。

1 階、2 階の多目的トイレは、オストメイトやおむつ交換に対応

議場：議員が車椅子を使用する等の場合に備え、スペースを確保するとともに、質問席や出入口までの通路には段差がない。

(2) 環境負荷の低減

建物中心部（3 階以上）に吹抜けを設け、自然採光・自然通風に配慮。また、太陽光発電も採用。

#### ・窓口配置

諫早市では、建設、上下水道、農林水産等に係る事務は別館で、その他の事務は本庁舎で行っている。中でも、住民異動、保健・福祉、税等に係る窓口は、本庁舎の 1 階から 3 階までに配置され、住民に密接な事務手続きの大半が低層階で済ませることができる配置となっている。また、正面（北側）、東、西の 3 か所に設けられた本庁舎出入口は、いずれも自動ドアを採用し、車椅子での来庁者もスムーズな移動ができるよう配慮されている。

しかし、諫早市庁舎は、吹抜けや市民窓口等の開放的な空間で透明なガラスを多用した結果、特に女

性からは、「下階からの視線が気になる」という声もあり、一部を擦りガラスや半透明のガラスへの交換を検討しているとの説明を受けた。

## ・庁舎内での喫煙

受動喫煙対策が必要である一方で、たばこによる市税収入という面も考慮し、諫早市庁舎での喫煙は、概ね各階に設けられた喫煙室に限って認めている。

## ・連絡通路

当初は、本庁舎3階と別館3階を結ぶ連絡通路を設置する予定であったが、建築基準法の改正により、特定行政庁である長崎県からの設置許可が得られず、現在は各建物の1階のみでの連絡となっている。

## ・委員の感想

- ユニバーサルデザインを考えて設計されていたが、後から手直しがいろいろあるようで、当初から考えられるすべてのことに関して検討されていれば良かった。また、議場のバリアフリー等は良かったが、委員会室は、将来のことも考えて広くしておくべきだと思った。
- 各階に喫煙室が設けられていたが、社会の流れとして行政がいかにかえ、スタンスをどうするのか考えるべきである。また、庁舎内に食堂は不要と思うが、設けるとしても売店等を含めて運営方法を考えるべきだと思う。
- 限られた敷地内にほぼ目一杯建設し、機能的にはゆとりのある建物を建てられている。1階は市民向けの部門を配置しているが狭く感じられ、ホール部等が少々雑然とした使われ方となり、その吹抜け空間としてももう少し工夫がほしい。
- 東西に配置された5基のエレベーターは、3基程度でも機能するのではないかと感じた。
- バリアフリー関連機能は、県条例以上の設備を備え、各階の多目的トイレや乳幼児用ベビーキープ、議場の議席や傍聴席の対応など、本市も機能を充実すべきと感じた。
- 事業系の部署が新庁舎に入っていない分、各階の余裕があると思った。会議室、相談室等もかなりあり、照明や空調等の経費についても考えさせられた。また、建物中央の吹抜けは、採光や換気の面では良いが、全体的なスペースの省略化や清掃等の費用等を考えると、本市では無理だと思った。
- 諫早市は、合併の時期や規模、新庁舎建設の理由や財源など、本市と似ているところが多い。予算や規模を考えると、本市も諫早市庁舎と同じ程度で良いと思う。
- 各階に設置された喫煙室によって完全分煙され、来庁者や職員のストレス軽減を図っている。本市も全館禁煙ではなく、完全分煙の庁舎を考えるべきである。
- シンプルで温かみのある外観の建物であるが、バリアフリー対策をはじめ、来庁者に配慮した設備が印象的であった。
- 諫早市庁舎の階数は、本市の新庁舎計画とあまり差がないが、吹抜けの設置により面積は本市のものよりも約20%広く、これにより建物の雰囲気を変え、採光のための工夫として参考になった。また、喫煙室についても参考にすべきと思った。